

連載⑨ 地域密着を進める
女子大学の人づくり
 宮城学院女子大学 現代ビジネス学部長 宮原 育子

宮城学院女子大学の新設学部である現代ビジネス学部一年生の講義は、一般教養科目と現代ビジネス学科の科目とに分けられます。一般教育科目では、特に「キリスト教と現代社会」や「女性と人権」、「音楽の世界」など、キリスト教主義の女子大学として特徴ある科目が必修となっています。これらの科目は、現代

の国際社会でもビジネスの世界でも必要とされるマナーや交渉上の考え方を提供してくれます。また、長年定評のある英語教育では、コミュニケーションと英語書籍の多読を重点的に学んでいます。

現代ビジネス学科で一年前に開講している科目は、「現代ビジネス基礎Ⅰ」や「現代ビジネス実務Ⅰ」といったビジネスの世界への導入的な科目で、経済活動や企業の仕組みを知るための基礎的知識を修得できるものです。

前期が終わり、学生たちにビジネス系科目を履修しての感想を求めましたが、「高校と全く異なり専門用語が多い講義に最初はとまどったが、ビジネスをさまざまな面から学べて新しい知識を修得できた」「流通やマーケティング、会計や観光などに興味を持った」「将来に役立つ考え方を身につけることができた」「後期により専門的になる授業が楽しみ」など大変前向きで、ビジネスへの関心が高く、現代ビジネス学部で学んでいることへの満足度も高いことが分かりました。

現代ビジネス学部では、授業以外でも一年生からビジネスの現場に触れてもらうため

の機会をそれぞれの教員が提供しています。この8月は、夏休みを利用して学生たちが教員の引率のもと東京研修旅行に行きました。

東京では、「金融ビジネス」コースと「商業ビジネス」コースに分かれ、「金融ビジネス」コースでは、日本銀行貨幣博物館や東京証券取引所を訪問見学し、貨幣や株式の歴史と仕組みについて学びました。「商業ビジネス」コースでは、日本の商業集積の中心

地である日本橋、銀座と原宿を訪れ、吉祥寺では駅ビルの施設見学やテナントミックスの戦略などを学びました。日帰り研修でしたが、学生たちは東京の空気を感ぜながら意欲的に見学をしていました。

後期に入り、現代ビジネス学科では、授業で学生たちにビジネスの現場を学ぶ機会を提供する「ビジネス基礎Ⅲ」が始まりました。この科目は、複数の教員が課外授業のプログラムを組み、学生たちは少

石巻など企業現場でビジネス学ぶ



東京証券取引所の見学

人数で受講します。

今後の課外授業の行先は、宮城県や山形県内の企業や地元団体、自治体など多様です。宮城県内では、南三陸町での観光協会の復興ツーリズム取り組みの調査をはじめ、石巻市内でのまち歩きマップ作りや、震災後の商品開発の現場の見学、商店街の復興に向けた取り組みを学びます。さらに、仙南地域では、大手製造

業の工場や食品工場の見学、山形県内では、天童市内の企業の6次化の取り組みの現場を見学する予定です。このように、現代ビジネス学部の講義科目では、教員たちの豊富なネットワークを生かし、学生たちに現場を見てさまざまな課題を知り、考える機会を提供していきます。

加えて、宮城学院の豊かなOG人脈を学部の教育に生かすことも重要だと考えています。10月21日には、「現代社会におけるビジネスと女性」をテーマにシンポジウムを開催し、ITや食、国際観光、スポーツといったさまざまなビジネス分野で活躍している5人のOGをお招きし、日頃の活動やビジネスと女性に関するお考えなどを広げることができています。現代ビジネス学部では今後も地域との連携を進め、教育の充実を図っていきたくと考えています。



宮原育子（みやはら・いこ）
 昭和29年生まれ。東京都出身。昭和61年榊日本旅行退職後、平成9年東京大学大学院理学系研究科地理学専攻博士課程修了。宮城大学事業構想学部教授を経て、平成28年4月現職に就任。